

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北海道)	◎	百貨店（営業販促担当）	・今後、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着くことで、客足がますます上向くことになる。
	◎	観光型ホテル（スタッフ）	・今後、新型コロナウイルス感染症について、感染症法上の位置付けの見直しや待機期間の短縮などが行われることになれば、全国旅行支援の可能性が高まり、旅行へ行く機運も高まると期待している。ライブの開催やスポーツイベント、地域の祭りなど少しずつ正常化に向けて進んでいることもプラスである。
	◎	旅行代理店（従業員）	・今後、新型コロナウイルス感染症に対する国の対策が変化することで景気が良くなることを期待している。
	◎	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大は続いているが、段々と症状が軽くなっていることから、人の動きがどんどん増えていくことが期待できる。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスへの規制がなくなり、通常時の状態に戻れば、景気は良くなる。
	○	商店街（代表者）	・青果物が順調に収穫されることで景気が良くなることを期待している。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・今後は観光シーズンも終わり、閑散期に入ることになるが、旅行者が時期を少しずらすなどして分散化する動きがみられるため、閑散期の旅行者が増えることが見込まれる。修学旅行や体験学習などが増えるとの声が聞こえることもプラスである。ただ、今後は比較的小規模の団体旅行が増える一方で、大型バスを貸し切るような大型ツアーがなくなるのではないかと心配している。
	○	百貨店（販売促進担当）	・今後は、年末に向けてのイベントも増え、カレンダーマーケットが前年よりも盛り上がるのが期待される。消費マインドはますます活性化することになる。
	○	スーパー（役員）	・今後も食料品の値上がりが続き、値上がりによる上乗せ分が節約によるマイナス分を上回るとみられる。そのため、全体的には消費額がプラスになり、景気が良く感じるようになる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今後は新型コロナウイルス感染症について、流行風邪という認識で世の中が動いていくとみられる。そのため、客の行動も制限されないようになり、従来の動きに戻ると期待している。
	○	乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の鎮静化に伴って、人流の増加、購買意欲の向上がみられるようになると期待している。
	○	乗用車販売店（従業員）	・新型車の発表があるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・お盆休みも終わり、多少は地域での金回りが良くなることを期待している。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・以前のような個々の客による健康相談が増えているなど、良い傾向がみられる。こうした新しい客の動きが今後も続くことで景気が良くなると期待している。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染状況が少しは落ち着くことで景気はやや良くなると期待している。
	○	旅行代理店（従業員）	・ウィズコロナの浸透、新型コロナウイルス感染者の待機期間縮小などの緩和措置の拡大、全国旅行支援の開始などによって景気が良くなることを期待している。
	○	観光名所（従業員）	・接客するなかで、日常生活やレジャー、余暇活動について、積極的に取り返そう、楽しもうという客のムードが強くなっている。実際に、国内客は日を追うごとに例年ベースに近づいており、よほどのことがない限り、こうした傾向は続く。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の第7波のピークが過ぎて、感染状況が落ち着くことで、今後の輸送量が回復することになる。
□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・諸物価が高騰していることもあり、今後については楽観できない状況が続く。	
□	スーパー（店長）	・ここしばらくは景気が良くなったり悪くなったりの状態が続くとみられ、結果として景気は横ばいで推移することになる。	

<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・観光地は景気が良くなっているようだが、物価の上昇が重く伸しかかることで、今後の景気は現状と余り変化なく推移する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（従業員）	・商材の値上がりが継続することに加えて、外食、観光などの回復がみられることから、今後の内食需要の低下が見込まれる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・今後の景気は新型コロナウイルスの感染状況によって変動するとみられるが、感染状況が落ち着くことで観光客の動きも元に戻ってくることを期待している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることで、店の売上、来客数に影響が始めている。このまま新規感染者数が増え続けるとますます来客数が減ることになる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（経営者）	・景気変動するような要因がないため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が少なくなることを期待している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・新車の長納期化が回復してこないため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・これから新型車が発売されるため、その販売効果が出てくるとみられるが、納期との兼ね合いから、新車登録が進まない限り、売上は立たない。納期の問題はしばらく解決しないとみられるため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・新型車の投入が予定されているが、生産状況が不透明なことから今後の景気が良くなるとは考え難い。ただ、客の動きが堅調なため、今後も現状維持の状態が続く。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [造花] （店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加する状況に世の中が慣れており、行動が大きく制限されることもないとみられるため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・北海道内の新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着きをみせるなか、県民割が9月一杯まで延長されたこともあって、今後の景気は若干良くなると期待している。例年の売上の50%を目標にワインにもう少し向けてもらえるように施策を考えていきたい。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染状況次第とみられるが、新規感染者数が落ち着いたとしても、すぐに人出が好転することも考え難い。ただ、感染が拡大したとしても、現在のような対策や制限のない状況が続くのであれば、今後も景気は変わらずに推移する。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況や県民割の実施状況などによって、景気が左右されるため、何ともいえない状況にある。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・観光客が増えてきているが、観光客でのタクシー利用は少ない。乗務員は募集しても集まらないため、減る一方である。人出は今のよう状況が今後も続くとみられるため、会社の売上は前年を上回ったとしても、新型コロナウイルス感染症発生前の20～30%減で推移することになる。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・問合せや予約の状況から、今後の来客数の増加を期待できる材料がなく、景気はこのまま変化なく推移する。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・現在の新型コロナウイルスの感染状況のみを限り、政府などが行っている様々な対策は、今後も人流を止めずに同様の対策を続けていくとみられる。そのため、感染状況を注視する必要はあるが、今後も景気は変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	・今後、新型コロナウイルス感染症の影響を余り受けずに推移する雰囲気があるため、現状と同じような状況が続くことになる。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響で客の行動は慎重になっているが、来客数はそれほど変化がないまま推移している。ただ、景気が更に良くなるような要因も考えられないため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	美容室（経営者）	・今後も景気は変わらない。ただ、新型コロナウイルス感染症について、スタッフの感染者や濃厚接触者が増えており、人手が少なくなっていることが悩みである。材料の価格高騰にも頭を悩ませている。

▲	商店街（代表者）	・今後、寒冷期に入るため、出控えなどにより、新型コロナウイルスの感染状況にかかわらず来街者の減少する時期となる。季節的には冬物衣料品などの売上が活発となる時期だが、日配品などの物価上昇や原油高の影響もあって、今後の動向については不確定要素が多い。ただ、8月よりも景気が上向くことは考え難い。
▲	商店街（代表者）	・様々な物が値上げしていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	商店街（代表者）	・夏観光は比較的堅調に推移しており、2019年比で80%程度までの回復がみられた。ただ、これは県民割などの支援事業のお陰である。今のところ、県民割は9月一杯までの予定となっていることから、10月以降の急激な売上減少が懸念される。このままでは冬を迎える北海道観光はどん底に逆戻りするため、全国旅行支援の早期実施が急務である。
▲	百貨店（売場主任）	・今後、商材の値上がりがますます増えることになるため、客の買上頻度、買上率の低下が見込まれる。
▲	百貨店（マネージャー）	・7～8月は特にファッションゾーンのクリアランスセールが好調に推移しているが、物価高の影響で割安感のある商材だから売れていると仮定すると、これからの秋冬商戦の定価販売において苦戦する可能性が高い。今後は売上や客の動向を注視して戦略を考えていく必要がある。
▲	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響が続くなか、物価上昇、ウクライナ情勢の影響も出ているため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（店長）	・今後、原価の高騰に伴う値上げが続々と行われるため、客の生活防衛意識が間違いなく高まることになる。
▲	スーパー（企画担当）	・この秋、本格的な値上げラッシュが続くとみられることから、エネルギーコストのかさむ冬場を迎えるに当たり、客の生活防衛意識がますます強まるとみられる。消費環境が一層厳しくなることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・契約先の店舗において、営業経費上昇に伴う経営ひっ迫により仕入れを控えるなどの動きが出てくることが考えられ、店舗の来客数減少につながる懸念がある。そのため、今後については販売量が上らず、出荷量が減る心配がある。
▲	衣料品専門店（店長）	・世界情勢が悪いなか、競合他社の不祥事の影響で、勘違いのひぼう中傷電話までみられる状況であり、業界全体での客離れが起こっていると日々感じることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	自動車備品販売店（店長）	・今後について、物価上昇の影響を懸念している。商材が品薄なこともマイナスである。
▲	旅行代理店（従業員）	・8月中旬以降、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で航空需要の伸びが鈍化している。全国旅行支援などの需要喚起策の開始が遅れると、閑散期となる11～12月の観光需要が伸びず、航空需要全体に影響が出ることになる。
▲	タクシー運転手	・地域の活性化策が講じられない限り、景気はますます悪化することになる。
▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者数が増えることで、景気はやや落ち込むことになる。
▲	通信会社（企画担当）	・通信端末の大幅な値上がりが見込まれていることから、今後の景気はやや悪くなる。通信契約のみでも客を獲得できるように対策を検討しているが、前年と比べて受注数、予約数のいずれも陰りがみえる。
▲	観光名所（職員）	・若干の回復基調にはあるものの、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響もあり、依然として不安な状況が続いている。新規感染者数の全数把握廃止や感染症法上の位置付けの5類への引下げなど、新型コロナウイルスに対する根本的な考え方が変わりつつあるなか、観光に対してもより深く効果的な施策の実施が望まれる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・建築資材などの価格が上昇しているため、分譲マンションの販売価格の上昇傾向は今後も続くと思われる。一方、この状況に我々の所得の上昇が追い付いていない現状を考え合わせると、今後の住宅市場の成長に難しさを感じる。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波における新規感染者数の急増と病床数不足への対策として、政府が何らかの強い手段を打つてくると考えられる。ただし、このような状況下にあっても、外国人観光客の受入拡大に向けた取組を進めなければ、観光関連を中心に倒産が続出する懸念がある。

	×	スーパー（店長）	・9～10月と値上げラッシュが続くことから、今後、客の購買力が落ち込む懸念がある。
	×	スナック（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況がこれだけ拡大しているなか、身近でも何十人も感染者がみられるようになってきている。そのため、以前の状況に戻るまでにはかなりの時間が掛かることになる。
	×	観光型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルス感染症について、感染症法上の分類の5類への変更や入国制限の緩和などの取組が遅々として進んでいない。ここまで傷んだ観光産業を回復させるための経済対策と補償がいまだに取られていないことから、冬場に向けて景気は悪くなる一方である。
	×	タクシー運転手	・巣籠りがスタンダードとなり、それに伴う需要が発生する業種がある一方で、タクシー事業は需要が減少している。新型コロナウイルスの感染の波が来るたびに需要の落ち込み幅が拡大していることから、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	*	*
	○	建設業（経営者）	・工事の最盛期を迎え、土木、建築共に稼働率が上がる。ただし、例年のような人手不足が発生することに加えて、資機材の納入遅れや値上がりも見込まれることから、工程や原価への影響がどの程度になるのかはっきりと読めない面もある。公共工事もそうだが、特に民間工事の設計変更が採算性を左右することになる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・新型コロナウイルス感染症対策は引き続き行われるものの、ウィズコロナが主流となりつつあり、従前のような行動規制などが緩和されていることから、観光を中心とした景気対策が引き続き活発に行われるとみられる。建設投資も景気対策としての公共工事が発注されることに加えて、都市部を中心とした民間設備投資も順調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
	□	食料品製造業（従業員）	・今後の見込みについても、現在と変わらない水準で推移するとみられる。
	□	建設業（従業員）	・景気は既にかなり悪くなっており、改善するような兆しもないことから、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（役員）	・上半期の好調な流れは下半期も基本的に変わらない。ただ、燃料や原材料の価格高騰に伴う建設資材の値上がりが今後も相次ぐことから、工事の採算を確保した受発注が厳しくなることを懸念している。
	□	金融業（従業員）	・個人消費は物価上昇がおもしとなり、持ち直しの動きが減速することになる。住宅投資も資材価格の高騰により低調な推移が見込まれる。民間設備投資は堅調さが見込まれるものの、世界経済の減速リスクが高まっている。これらのことから、今後の道内経済は横ばいでの推移にとどまる。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・3か月先までの受注が既に確定しており、これ以上の仕事を受けようにも人手が足りない。同業他社も似たような状況のようだ。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・北海道新幹線の札幌延伸関連工事、再開発などの都市部を中心とした民間建築工事、再生可能エネルギー関連工事などの継続案件はあるものの、それ以外の大きな工事案件が特に見当たらない。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・今後への見通しは良くない。このまま悪い状況が続くとみられる。
	▲	輸送業（支店長）	・北海道特有の傾向で、冬季に入ると景気が下向くのが通常のパターンとなるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	通信業（営業担当）	・エネルギーや原材料の値上げなどのインフレが下期始め頃から経済や企業活動に顕著な影響を与え始めることを懸念している。
	▲	司法書士	・景気が良くなるような状況が見いだせない。電気代、ガス代などの光熱費がますます上昇する一方で、収入が増えるような要因が見当たらない。
	▲	司法書士	・これから冬季に向かうなか、不動産業や建築業は徐々に取引量が少なくなることから、景気はやや悪くなる。円安や物価上昇も取引量の減少に拍車を掛けることになる。

	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・市場の動きをみてもそれほど忙しくない。また、ベース商材の動きが悪く、案件を受注しても納品まで時間が掛かるため、単月での積上げは大変厳しい状況にある。今後の世界情勢などの動きも見据えながら状況を判断しなければならず、先行きを読みにくい状況にある。
	×	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・業種や職種を問わず、人材不足又は人手不足感が強く、求人への潜在的な需要があることから、今後、求人件数が上向きになるとみられる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルス感染症対策よりも経済を回す方にかじ取りが行われるようになってきていることから、今後、国内、海外からの観光客が増加することを期待している。
	○	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は1年4か月連続で前年を上回っており、全体としては回復の兆しがみられる。ただ、産業、業種によってその度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況や経済活動、消費行動の状況によっては先を見通せなくなる懸念もある。
	□	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、企業側はおおむね落ち着くことを想定して動き出している。一方、求職者の動きが8月に入ってから鈍くなっており、登録数が低迷している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・物価の高騰に合わせて、社会保険の適用拡大や最低賃金の改定が行われるため、総合的に判断すると景気は今後も大きく変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、観光地である当地にとって、この秋は3年ぶりに大中小規模の各種イベントの開催が控えていることから、先行きへの見通しは明るい。
	□	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の第7波による経済への影響、原油や原材料価格の高騰など、事業環境の悪化を招く要因は多いものの、業況が堅調な事業所からの求人もあって、新規求人数は維持できていることから、今後も景気は変わらない。新規求職者数が前年から減少していることも持ち直しにつながっている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・例年9～10月は予定している採用枠を満たせていない部分の補充程度でしか内定出しが行われないことから、今後2か月ほどは大きな変化がないまま推移する。
	▲	—	—
	×	職業安定所（職員）	・年末に掛けて更なる値上げが続くとみられることから、今後の景気は悪くなる。